

国鉄改革完遂！
 当たり前の労働運動
 を前進させよう！
 JR東海労に
 結集しよう！

J R
 東海労

静岡

J R東海労働組合静岡地方本部
 静岡市葵区黒金町 68
 NTT 054-284-3608
 FAX 054-283-6365
 発行責任者 山本繁明
 2012年2月15日 No. 5

リニア中央新幹線建設南アルプストンネル 膨大な残土処理不可能!?

平成24年(2012年)2月8日(水曜日)



リニア 県内トンネル工事

JR東海のリニア中央新幹線建設計画で、南アルプス地下を貫通する長大トンネルの掘削で排出される残土量が、県内区間だけで最大200万立方メートルに上る可能性があることが7日、県の試算で判明した。県環境影響評価審査会で委員は「トンネルの位置や工事内容が明確でない」と指摘し、リニア建設が自然環境に及ぼす影響を強く懸念。トンネル建設に伴う大量の残土処理が今後、議論となるのは必至だ。

— 関連記事26面へ

残土排出200万立方メートル規模 南ア直下、処理課題に

残土の具体的な試算が示されたのは初めて。200万立方メートルは東京ドーム2個分に相当するが、トンネルが山岳地域の南アルプス国立公園の地下を貫くこと

から、大型ダンプなどでの搬出は難しいとの見方がある。JR東海が公表した環境影響評価(環境アセスメント)方法書では、残土の量や置き場の具体的な記述はない。

JR東海の計画によると、長大トンネルは山梨県から長野県にかけて整備され、全長約20キロ。県内区間はこのうち約10キロで、塩見岳と荒川岳の間の地下を通風する(見通)。

県は試算で、トンネルの本坑を幅約13メートル、高さ約7メートル、本坑掘削のための「斜坑」を幅約10メートル、長さ10キロなどと想定。本坑と並行して避難路を確保する必要性なども加味して算出した。関係者は「工事内容が具体的に少なく、多めに見積もっているが、斜坑の本数が増えれば残土量がさらに膨らむことも想定すべき」としている。

リニア計画をめぐっては今年28日まで、川勝平太知事が方法書に記載された環境アセスの項目や進め方などに対する意見を、JR東海へ提出する。

強引・傲慢に押し進めるリニア中央新幹線建設反対!